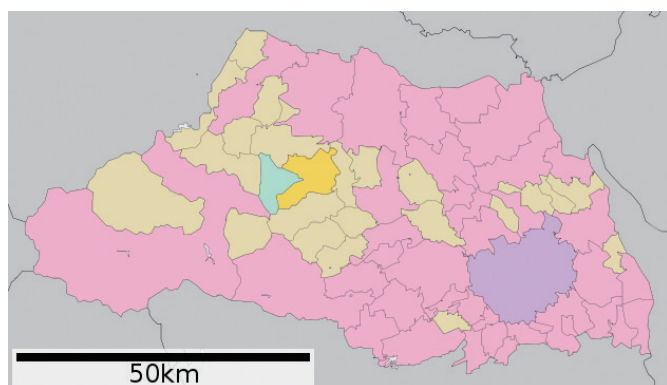


## 小川消防団と女性消防団の活躍

### はじめに

小川消防団が管轄する小川町は、埼玉県のほぼ中央部に位置し、面積は60.45平方キロメートルで人口は3万2千人あまりです。市街地は周囲を緑豊かな外秩父の山々に囲まれた盆地で、中央には槻川が流れ歴史を誇る小川和紙や小川絹をはじめ、建具、酒造などの伝統産業で古くから栄えた町です。また、歴史を秘めてたずむ史跡や往時の面影をとどめる町並みなど、その風情から、いつしか「武蔵の小京都」と呼ばれるようになりました。

小川消防団は、明治20年に「消防組」として設置され、平成4年には管内の常備消防が広域化されたことに伴い、新たに「比企広域市町村圏組合小川消防団」として発足しました。組織は団本部及び2分団8部で構成され、団員数は127人、消防ポンプ車6両、水槽車2両の計8車両で運用しており、平成26年度には念願であった広報車両を新規導入予定しております。広報車両は今後、災害支援活動は元より女性団員を主とする火災予防運動や広報等幅広く活躍する車両として導入目的の車両です。



### 女性消防団員の加入と活躍

平成24年度、小川消防団初の女性団員8人が入団しました。始まりは近隣の消防団が女性消防団を加入したことに倣って発足しましたが、同時に優秀な人材が集ま

### 埼玉県 比企広域市町村圏組合小川消防団

り消防団員として多方面への活躍が期待される団員へと成長しました。団員の職業は介護施設、歯科医院、役場など勤務は様々ですが看護師の資格を取得している女性も入団しています。入団1年目は、消防団員としての基礎訓練の他に、消防署で実施する普通救命講習や応急手当などの講習会に積極的に参加し消防団員としての基礎体力や救急・救命に関する知識の充実を高めることを目的としました。



また、火災予防運動を目的とした、寸劇活動も開始しました。これは主に、福祉施設や老人会、区長会などに出向いて、消火器の押売りやオレオレ詐欺などに対する対応の仕方をユーモラスに上演するもので、非常に好評を得ています。



平成25年度からは、取得した資格を生かして広報・救急部を発足し、資器材を充実して災害現場での後方支援活動として応急手当を実施することになりました。また、埼玉県消防協会が主催する住宅用火災警報器設置推進指導員研修会にも積極的に参加し、消防職員と共に消防広場や街頭キャンペーンなどで設置推進運動を行っています。

さらに、女性団員研修や発表会には積極的に参加しており、昨年10月には第19回全国女性消防団員活性化ぎふ大会に参加、12月には埼玉県消防協会女性消防団員研修意見発表会に高瀬亜沙美団員が参加し、優勝、全国大会への切符を手に入れました。そして、平成26年2月、全国消防団員意見発表会において見事、最優秀賞を受賞いたしました。このような活動の成果を得るため、常日頃より石川団長を中心とする多くの男性団員、また、各職場での協力・支援を得ています。

今後も、研修会や講習会などには積極的に参加し、さらなる知識・技術の向上に努め女性団員として男性団員に負けないよう、また、相互に協力できるよう、さらには地域住民の防災に少しでも貢献できるように努めていきたいと、女性団員全員が考えています。

## 女性団員の火災予防啓発劇の紹介

火災予防啓発劇には、啓発劇（寸劇）、腹話術、紙芝居、人形劇、ぬいぐるみ劇などがあります。小川消防団女性団は、啓発劇（寸劇）を使ってクイズ形式で火災・防災について活動しております。さらに下記の順番でいろいろなレクリエーションも同時におこなって楽しく火災・防災について学んでいただいております。

1. おたまじゃくし体操：

体をほぐすためのオリジナルの簡単な体操です。  
活動が始まる前に行います。

2. クイズ形式の寸劇：  
参加賞（命を守る笛）とトップ賞（簡易消火器）のプレゼントがあります。
3. 火消しゲーム：  
火災時のバケツリレーを彷彿させるゲームです。  
マグネットになった水滴模様のものを、お年寄りが一列に座り順次手渡しで、炎が描かれたものに、貼り付けてタイムを競います。
4. 消火器の説明と住宅用火災警報器の設置のお願い。
5. 女性団員の活動報告：火災時の後方支援活動。
6. 広報活動として年3回小川町の広報に小川消防団の活動報告をのせる活動。



## 女性団員のコメント(入団時)

### 1. 入団のきっかけ

山田団員、以前から興味があり知人に誘われて。家族も応援しています。

入澤団員、以前から興味があり尊敬する方のお誘いをいただき。

峯岸団員、同期生に誘われて。

武井団員、職場の上司に誘われて。制服を着てみたかった。

寺西団員、消防団活動をしている方に勧められて。

内田団員、職場の運営会議で出席した消防団員のお話がきっかけで。

佐伯団員、職場の上司に誘われて。設立目的に興味を持ち。

(説明会が入団会になっていて驚き)

高瀬団員、消防団の方から女性消防団募集の話をいただき。

### 2. 今後の抱負

山田団員、今までの知識、技術、経験を活かし地域に役立てればと。

入澤団員、災害弱者のメンタル面のケアが少しでもできれば。

峯岸団員、地域に貢献できるように頑張ります。

武井団員、女性ならではの地域に密着した広報活動をしていきたい。

寺西団員、消防団員としての知識を身に付け、少しでも地域の方々のお役に立ちたい。

内田団員、高齢者の災害時などの手助けや、消防団と地域施設を繋げる役目をしていきたい。

佐伯団員、仕事と活動の繋がりを活かして地域の方々のお役にたてるように。

高瀬団員、応急手当てなどの知識・技術を学び、女性だからできることを考え、活動していきたい。

### 3. 入団前と入団後の消防団のイメージは

山田団員、消防団＝消火というイメージが強かったが。救急・救命を通じて地域の安心と安全を考えていきたい。

入澤団員、今の所、イメージの違いは感じていません。

峯岸団員、上下関係がはっきりしていると思います。

武井団員、消防団は規律正しいなー、と思いました。

寺西団員、何をやっているのか全くわからなかったが、講習会等で知識や技術を身に付け消防署と共に地域の安全を守るための活動をしていると理解した。

内田団員、なくてはならない仕事であり、大変だなというイメージと不安があったが、入ってからは女性団の役割や活動しやすい環境を作ってくれています。

佐伯団員、まだ始まったばかりなので……………。

高瀬団員、入団してから、消防団の方々の熱心な思いを知りました。

## 「自主防災の町への第一歩」

小川消防団 高瀬 亜沙美

私達、埼玉県小川町の消防団の女性団員は、平成24年4月に結成され、活動をスタートしました。現在、女性団員は8人で、医療関係者や介護施設職員、役場職員などです。まだ結成まもない私達ですが、それぞれの得意分野を最大限に発揮できる活動は何か、と考へ、少しずつ形にしてきました。

1年目は、応急手当などの様々な研修を受けたり、男性団員の訓練の様子を見学するなど、覚えること、知識を増やすことで精一杯の年でした。その中でも、私達にできることは何だろうと、話し合いを重ね、1年目も終わりになるころ、ようやく見つけたのです。その一つが寸劇です。

小川町では、高齢者人口が年々増えてきています。一人暮らしの方、日中独居の方など様々ですが、「火災などの災害に遭遇したらどうしよう。」と不安に感じている方も多いのではないのでしょうか。そこで私達は、日常生活の中で、「こんな時どうしたら良い？」と、少し悩んでしまうような事例について、寸劇をまじえて、○×クイズ形式で楽しんでもらいながら、防災の知識を得ていただく、と考えました。

舞台は、おじいさんとおばあさんの家。

オレオレ詐欺の電話がかかってくる、消防署員と名乗る者が高額な消火器の販売に来たり、住宅用火災警報器設置などの場面を、ユーモアをまじえて上演、合間に、関連するクイズを出しています。

音響担当の私はいつも舞台そでから見ていますが、団員の演技力はなかなかのものだと感じています。この場でお見せできないのが少し残念ですが、2年目の今年度、小川町の各地区の区長さんに披露したことをきっかけに、高齢者を対象とした集まりで、ぜひ寸劇を披露してほしいとの依頼を沢山いただきました。

寸劇とともにやっているのが「おたまじゃくし体操」と「火消しゲーム」です。

「おたまじゃくし体操」は、椅子に座ったままでもできて、簡単に覚えられる体操です。音楽に合わせて行います。

「火消しゲーム」はバケツリレーを参考にしました。水滴の形をしたマグネットを順に手渡して炎を描いた



ボードにはりつけ、火を消すという、早さを競うゲームです。ボードは3つあり、各ボードに団員がついて、全ての水滴を貼り終わったら、団員が「消火完了！」と伝えます。

実は、高齢者の皆さん、このゲームを一番本気で頑張ってくれます。優勝チームには、助けを呼ぶときに吹くための「命を守る笛」のプレゼントもしてきました。

このような楽しいゲームで、地域の防災、連帯意識を高める手助けになれば、こんなに嬉しいことはありません。

ただ、このような活動をしながらも、大きな火災を近くで見て、大切な人や物を失うことの悲しみ、火災の怖さを改めて感じさせられることもありました。

みなさんも当てはまると思いますが、仕事をしながら、家庭をもちながらの活動は、簡単なことではありません。ただ、その中でも今まで8人で頑張れたのは、火災で悲しい思いをする人がゼロになってほしいという強い思い、ただそれだけだと思います。

この2年間で私達、小川消防団、女性団員の活動は形ができてきましたが、さらに工夫改善を加えながら活動を広め、小川町のみなさんがいきいきと生きていける町づくりを目指していきたいと思っています。この活動は、石川団長をはじめ、男性団員の方々の協力に助けられています。他の団員への感謝も忘れずに、「自主防災の町」を目指して、今後も活動していきます。

男性団員は火災現場での消火活動を、私たち女性団員はこの防災活動で町に明るい灯をともしたい。